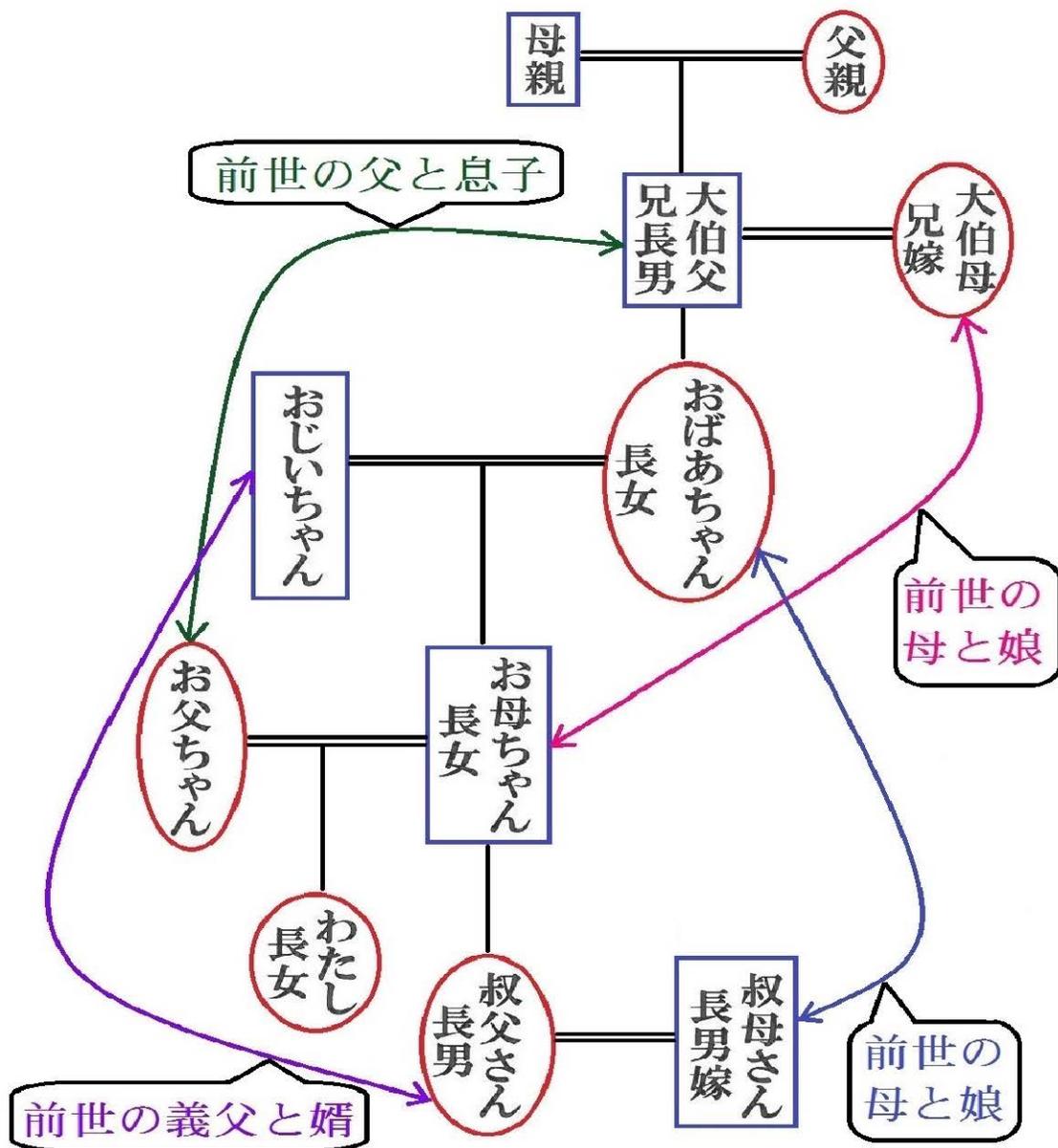


わたしのアトピー性皮膚炎は おばあちゃん！

命の絆の法則



わたしのアトピー性皮膚炎はおばあちゃんの図式



前書き。

小学校に通っている三年生の女の子は、ある日突然、アトピー性皮膚炎になり、友だちの輪に入れなくなり、いつも独りで遊んでいる。

そんな娘さんが心配なので、母親は通院だけでなく、カウンセリングを受けたりして、普通の生活に戻って欲しいと願っている。

だがアトピー性皮膚炎以上に、つぎから次へと難題が襲い掛かってきた。

それは小学四年生の新学期間もなく、同級生からいじめに遭い不登校になり、家から一步も出られなくなり、引き籠もりになってしまった。

それを機に母親と祖母はようやく重い腰を上げ、命の絆の法則の意味が分かり実行してから、引き籠もりだけでなく、アトピー性皮膚炎も治った話。

No. 1、お母ちゃんのお秘密。

お母ちゃんは誰にも言えない秘密があるのよね。それはお父ちゃんに内緒で、おばあちゃんと毎

日メールをしていることを。

だけどわたしには分かるの。

お父ちゃんに内緒で、おばあちゃんと毎日メールをして会っていることが。

お母ちゃんとおばあちゃんに気づいてもらいたいために、わたしの命がアトピー皮膚炎になって訴えているからなの。

わたしの病の原因が分からないから、お母ちゃんは、いろんな病院を走り回ったり、カウンセリングを受けたりしているけど、お父ちゃんは仕事に追われているので気にも留めない……。

わたしは日に日にくすりが必要になっていくの。

くすり漬けになっていくの。

くすりよりもおばあちゃんへの思いよりも、もっと大切なものがあるのに…。

わたしのアトピー皮膚炎とお母ちゃんとおばあちゃんのメールのやり取りをして、毎日会ってい

ることと、どう関係するのか分からないわよね。

アトピー皮膚炎は病気であって、メールや会うのとは因果関係がないと思うわよね。

お母ちゃんがおばあちゃんを慕えば慕うほど、
労わればいたわるほど、親孝行をすればするほど、
わたしの命は蝕まれていくの。

No.2、お祝い事の前後に禍が起きる。

お母ちゃんはわたしを連れて、おばあちゃんの誕生日のプレゼントを買いに、デパートに行ったよね。

けどなかなか決まらないので、お母ちゃんは、おばあちゃんを携帯で呼び出し、自分の好きなセーターを買っただけなら良かったんだけど、それをお母ちゃんが選んだように見せかけて、誕生日に何食わぬ顔をして持って行ったよね。

おばあちゃんと一緒に住んでいる叔母さんの贈り物なんか見向きもしないで、お母ちゃんの贈り物を大喜びでみんなの前で着て、見せびらかせていたのを覚えている？

そのときの叔母さんの顔を見た？

わたしは見たの。

悲しい顔を…。

お母ちゃんは、叔母さんのことなんか眼中にないから、気にも留めていなかったけど、おばあちゃんの家から帰ってきた晩、わたしは熱を出し引き付けを起こして緊急入院したの。

覚えている？

覚えていないよね。

おばあちゃんは毎日来てくれていたけど、叔父さん夫婦はお見舞いに一度も来なかったから、お母ちゃんとおばあちゃんは怒って、叔父さんに文句を言っていたわよね。

叔父さんは、何も言えずにうつむいて黙ったままだったわ。

だけど、お母ちゃんとおばあちゃんは、わたしが入院したことを叔父さん夫婦に教えていなかったよね。

優しく気を遣ってくれた叔父さんごめんなさい。

No.3、わたしの命は誰？

その日を境にアトピー皮膚炎になって、入退院の繰り返しになったの。

わたしはお父ちゃんと同じ命なの。

おばあちゃんと同じ命なの。

叔父さんと同じ命なの。

おばあちゃんが母親と共謀していじめ抜いて悲しい目に遭わせた大伯母さんと同じ命なの。

だけど、よくおばあちゃんは、
「わたしは親孝行をしてきたから、長生きしているのだよ」

「兄嫁は親孝行をしないから、早く死んだんだよ」

「わたしは今でも実家の墓参りを真剣にしているから、幸せに暮らしているのだよ」

と自慢げに言っているよね。

そうじゃないの。

だから気づかせるために、わたしの命が大伯母さんに償いをしているの。

No.4、親切とは？

償いという字は「人が賞を取る」

偽りという字は「人の為に」

優しいという字は「人が憂い」

親切という字は「親を切る」と書くの。

嫁いだ人は親孝行以外でも、病んだとき直接、お見舞いや看病をするのではなく、姉弟の長男夫婦を労ることで、もめ事や病が軽くなるの。

間接的に親に孝行をすることが陰徳なの。

出しゃばって親に孝行をすれば、「陽徳怨みの元なり」で、夫婦や親子の絆を切ってしまうの。

親が長男夫婦だけを守ることで、他の子供たち

も守られるの。

人には与えられた立場と順序があるの。

嫁いだ人は実家を継いだ兄弟を裏切ることになるから、墓参りや供養をしてはいけないの。

おばあちゃんと母親が作った罪を気づくために、お母ちゃんはお父ちゃんと結ばれ、叔父さん夫婦に出会ったの。

前世での罪を現世で同じことを、二度と繰り返さないと神様に誓ったから、わたしが生まれたのに、前世と同じように、「前世の母と娘」の絆を切ってしまったから、わたしの命と魂が分離して、アトピー皮膚炎になって教えているの。

娘が入れば嫁は入ることができない。

嫁が入れば娘は入ってはいけない。

婿が入れば息子は入ることができない。

息子が入れば婿は入ってはいけないの。

長男夫婦以外を優しく引き寄せてはいけないの。

これは誰かが入れば同じ魂の人は入れない、定

員オーバーの原理なの。

No.5、前世で約束。

現世では、おじいちゃんとお父ちゃんは、義父と婿だけど、前世では、大伯父さんとお父ちゃんが、「父と息子」だったの。

現世では、おばあちゃんと叔母さんは、姑と嫁だけど、前世では、「母と娘」だったの。

現世では、おじいちゃんと叔父さんは、実の親子だけど、前世では、「義父と婿」だったの。

現世では、おばあちゃんとお母ちゃんは、母と娘だけど、前世では大伯母さんとお母ちゃんが、「母と娘」だったの。

だからわたしは、おばあちゃんの命を通して、大伯母さんの命と魂を受け継いで誕生したの。

誕生とは、

大切な人が生まれてくる。

恩を返したい人が生まれてくる。

思い出したい人が生まれてくる。

忘れてはいけない人が生まれてくる。
縁を結びたい人が生まれてくる。
感謝すべき人が生まれてくるの。

嫁や婿は他人だと言うけど、前世の親に恩返しをするために、一番嫌いな人に育てられた人の子が里帰りしてくるの。

娘は先祖の里へ里帰りだから、
「お帰りください！」と言って丁重に送り出し
嫁は先祖の魂の里帰りだから、
「お帰りなさい！」

と言って、丁重に出迎えることが、魂が結ばれる「結魂式」なの。

魂を入れ替えと組み替えして、前世の恩を返しに里帰りしてくるのに、現世の母と娘が寄り添えば、前世の娘の入る隙間が無く、嫁の存在のままになり、何度も同じことを繰り返してしまうの。

せっかく叔母さんは、前世の親に恩返しをしようと里帰りしてきたのに、恩返しできなくなるの。

だから、おばあちゃん！ 早く叔母さんに、「お

帰りなさい」と言って。

No.6、花壇の花と雑草。

たとえばね。

花壇に水をあげるおばちゃんに花たちは、
「あのおばちゃんのお陰」
と思い我先にと咲き誇るわよね。

勝手に生えている雑草は水をもらえないから、
雑草の子供は、
「父ちゃん。僕あの花壇に入りたいな。花壇の花
はいいな。おばちゃんに水をもらえるから」
と言う息子に、父親は、
「自力で根を張りなさい」
と、言って子供を根強くさせているの。

おばちゃんが水を与えることが出来なくなると、
花壇の花たちはなんて言う？

「あの優しいおばちゃんはどうしたの」

「どうして見捨ててしまったの」

「薄情者！」

と言いながら、根を張ることを知らない花たちは枯れてしまうの。

だけど雑草は枯れないわ。

おばちゃんは雑草親子に手も足も出さず、無言で見守っていたの。

これが本当の親切だと分かって……。

花壇の花は誰？

わたしたち親子なの。

雑草は誰なの？

叔父さんたち親子なの。

おばあちゃんはお母ちゃんに優しく近づいて、根を張らせないようにしているの。

根とは誰？

わたしのことなの。

おばあちゃんの魂が、
「わたしが娘夫婦に怨返しをしているうちに幸せ
になりなさい」

と叔父さん夫婦を遠ざけて、無言で見守っているの。

これでも気づかないお母ちゃん……。

No.7、前世の恩返しの里帰り。

神様との約束は、前世の婿を長男として授かり、
前世の娘を嫁として里帰りさせ、幸せに暮らすこ
とを誓ったのに、現世の娘に親孝行をさせ、「前世
の母と娘」の縁を切ったから、親が作った罪を子
供が受け継ぎ、孫が神様との約束を思い出させる
ために、アトピー性皮膚炎になっているだけなの。

これは遠交近攻の策で、遠くと交われば自然に
近くを攻めてしまうの。

一番やってはいけない行為なの。

親に孝行は誰も罪とっていないけど、ただの
出しゃばりにすぎないの。

この遠交近攻の策のために、何も罪のない若い命が消えていくの。

祖父母や親に気づかせるために、犠牲になっているの。

おばあちゃんが叔母さんを見無視しているように見えるけど、前世の母として前世の娘に手も足も出さず見守っているの。

これが神様に誓った約束なの。

お母ちゃんは前世では大伯母さんの娘だから、母親とおばあちゃんどで兄嫁をいじめたように、現世でも悟られないように優しく接し、根を張らせないようにして、夫婦喧嘩をさせたいの。

おばあちゃんが兄嫁をいじめたように、お母ちゃんをいじめているの。

だから、わたしがアトピー皮膚炎になったの。

このままだとわたしは、大伯母さんと同じで早く死んでしまうの。

早く気づいてお母ちゃん！

おばあちゃん本人には、なんで罪が来ないのか分かる？

それはね、本人の命が消えてしまうだけなら、人は悟ることが出来ないからなの。

おばあちゃんが気づいて悟りを開き、二度と同じ過ちをしないためなの。

これが魂の神意なの。

No.8、親孝行の代償。

分かってよ。

おばあちゃんがいじめた分だけ、わたしがいじめられるの。

もういじめっ子が近づいてきているの。

このままだと不登校から引き籠もりになってしまうの。

うつ病になってしまうの…。

統合失調症になってしまうの…。

結婚の縁を無くしてしまうの…。

お父ちゃんの命も消えてしまうの…。

わたしの命が消えてしまうの…。

それでも気がつかない母ちゃん……。

それでも親孝行をしているかも知れない…。

きつともっと他に直す方法があるかも知れない
と思うよね…。

きつとお父ちゃん側に罪があるかも知れないと
思うよね…。

「墓参りや供養をしないと祟りや因縁が断ち切れ
ない」

と言われるほうを信じるわよね……。

人は自分ではなく誰かの責任だと言われること

を望んでいるから……。

No.9、同時進行。

わたしのクリスマスプレゼントを買いに、お母ちゃんとおばあちゃんと一緒にデパートに出かけたとき、お母ちゃんは、「私にも何か買ってくれる？」

と、おばあちゃんにおねだりをしていたわよね。

おばあちゃんは、「いいわよ。何が欲しいかね」と、言いながら楽しそうに選んでいたね。

わたしはふと思ったの。

叔母さんへのプレゼントはどうするの？

だけどそんな気配はない。

わたしのプレゼントをかうのは口実で、おばあちゃんはお母ちゃんへのプレゼントをかうことが目的だったんだ…。

それを気づいたとき悲しかった……。

買い物を済ませレストランで食事をして、おばあちゃんを自宅に送った帰り道、スーパーで簡単

なパック詰めを買い帰ってきたなら、お父ちゃんは電気もつけずに、暗いリビングのソファで寝転んで待っていたね。

「どこに行っていたのだ」

「娘のプレゼントを買いに行っていたの」

「食事は？」

「もう済ませたのであなたの分を買ってきたわ」

「誰と一緒にいたのだ」

「……………」

お父ちゃんとお母ちゃんは喧嘩になり、お父ちゃんは食事もせずにはふて寝をしてしまったの。

あくる日、お母ちゃんは腹の虫がおさまらないのか、おばあちゃんにお父ちゃんの悪口を言っていたわ。

おばあちゃんは、「なんと気が小さい婿だよ。おじいさんそっくりなこと」

と言い、労わっていたよね。

クリスマスの日、「ただいま」と玄関の戸が開いたので、「お帰りなさい」とお父ちゃんを出迎えたなら、ケーキを渡してくれ喜んでいたけど、お母ちゃんは誰かと携帯でコソコソと話し込んでいたので、お父ちゃんが帰ってきたことに気づいていない。

それどころかお母ちゃんは何も言わず、青い顔をして自動車でどこかに行ってしまった…。

No.10、お父ちゃん助けて！

おばあちゃんは透析をするために、シャントの手術を受けることを後になって分かった。

おばあちゃん、誰が入院の準備をするの？

おばあちゃん、誰に連れて行ってもらうの？

おばあちゃん、誰が手術の保証人になるの？

おばあちゃん、誰が手続きをするの？

おばあちゃん、誰が緊急連絡人なの？

おばあちゃん、送り迎えは誰がするの？

手続き書類は、お母ちゃんとおばあちゃんとの勝手に書いて提出した。

手術保証人以外は、すべてお母ちゃんが引き受けたらしいの。

次第にお父ちゃんのことを後回しにするようになったばかりか、わたしへ対しても、きつい口調になり始めてきたお母ちゃん。

四年生の新学期が始まったけど、わたしのアトピー性皮膚炎の通院以外は、おばあちゃんのことでも頭がいっぱいなお母ちゃん。

だけどもっと最悪なことが起っていたの。

おばあちゃんの透析の送り迎えをし始めてから、叔母さんがうつ病になったことを後から知ったの。

お母ちゃんは叔父さん夫婦を無視して、おばあちゃんの世話をしているから、叔母さんがうつ病になったのを知らなかった…。

お母ちゃん！ 叔母さんのお見舞いに行った？

行っていないよね。

わたしには分かるの。

それは同級生のいじめっ子が、わたしに近づいてきたからなの。

「お前は身体検査を受けなかったよな。どこで身体検査をしたのだ」

わたしは何も言えず、逃げて家まで走って帰ってきた時に、お母ちゃんはなんて言った？

わたしはチャンと覚えているの。

「おばあちゃんの食事の支度をしているのに、どうして帰ってきたの。いま算数の時間ではないの？ 学校からの連絡も無いのに…」

と言いながら、冷蔵庫の扉に貼ってある表を見て、不機嫌な顔をしていたよね。

もう限界なの。

いじめっ子はおばあちゃんとお母ちゃんが引き

寄せているの。

叔母さんを見殺しおばあちゃんの世話をしていることは、遠交近攻の策だということを教えるために、いじめっ子が悪さするの。

下駄箱に置いてある上靴がないの。

箸入れが下駄箱に入れられていたの。

鉛筆の芯が折られているの。

朝起きると微熱が出てしまい学校に行けないの。

あくる日も。

あくる日も。

微熱が続く。

とうとう不登校になってしまった……。

だけどお母ちゃんはわたしのことを心配しているけど、本当はおばあちゃんのことが一番心配なのよね。

お母ちゃんの顔にチャンと書いてあるから。

日に日に家から出たくなくなって来る…。

暗い部屋にいるほうがいい…。

引き籠もりがいい…。

誰にも会いたくない…。

お父ちゃんの気持ちが分かり始めてきたの。

お父ちゃんは寂しかったんだ。

お父ちゃん早く帰ってきて！

No.11、命の絆の法則。

1、家紋の意味。

いまでは男女平等や同権だと言われるが、昔の嫁側の親は、婚礼用の一式に冠婚葬祭用としての家紋入りの礼服を持たせたが、女側の家紋入りで男側の家紋ではない。

それは嫁ぎ先に対して立ち振る舞いに粗相がなく、婿の親や親族に恥をかかせないためもあるが、

女側の家紋に泥を塗らず、誉を落とさず、名を汚さずという嫁の親としての無言の配慮があった。

いまの女側の親は、みずからの家紋に泥を塗っていても、平気な顔をして町を歩いている…。

いま一度、男側と女側の立場をわきまえることが必要な時代になったのでは…。

2. 初客の意味。

昔は嫁いで一カ月経ったころ、義親や主人から預かった手土産を持って、里帰りをする初客の儀式があった。

その時に、親は里帰りしてきた娘さんを上客としてもてなすために座布団に座わらせた。

座った娘さんは、「これからも末永いお付き合いをよろしくお願いします。と主人が申しておりました」と親にお礼を述べ、手土産をお渡しする。

受け取った親は床の間に丁重に据え置き、お茶やお茶菓子でもてなす。

娘さんはもう自分の家ではなく、お客としての心構えを持ち、勝手に他の部屋に出入りしてはいけない。

それが両家の人生儀礼の付き合いなのに、いまでは、どこが自分の家なのか、よその家なのか教えない親や知らない親が多いから、離婚率が多いのでは…。

孫も勝手に入ってきて勝手に冷蔵庫を開けたりしているの、内孫なのか外孫なのか、ただの孫なのかも区別ができなくなった。

3、内孫と外孫と孫の違い。

よく祖父母が、「孫ほどかわいい」「目に入れても痛くない」と言うが、孫にも立場と順序とがあることを認識していないから、いろんな禍に巻き込まれていることを知るべきだと思う。

内孫とは長男夫婦の子供。

外孫とは二男や三男夫婦の子供。

孫とは娘夫婦の子供。

それを平等だからとか、近くに住んでいるから、かわいいから、優しいから、出来がいいからだと思い、立場と順序をわきまえずに近づけているから禍に巻き込まれたり、負担を背負わせたりしているのが現状ではないか。

昔は内孫以外の外孫や孫がかわいいから遠ざけ、幸せになって欲しいから近づけなかった。

4、嫁いだ娘と親と合鍵を持ち合わないこと。

鍵ほど重要な役割があるが、いまでは簡単に嫁いだ娘と合鍵を持ち合っていたりしている家が多いが、そのために様々な禍に遭遇してしまうので考え方を改めてはどうか。

昔は、鍵はなかったが、不用心だからとか、誰が忍び込んでくるのか分からないと思うが、娘と合鍵を持つこと自体が悪いことを招き入れていることを知るべきだと思う。

5、嫁側の親は（親は親同士）を心がけること。

嫁がせた親は、婿側の親の立場を守ることにより、みずからの家を間接的に守られることを知ること。

嫁側の親は娘ではなく（親は親同士）を重んじ、年上だろうが、地位や名誉や学歴が婿側の親よりも高かろうとも、婿側の親の立場を守ること、嫁いだ娘の幸せに通ずると認識すること。

嫁側の親が婿の親に対して低姿勢になり、お中元やお歳暮などの贈り物は丁重にすること。

この意識がない親が多くなり始めたために、不倫や離婚だけでなく、徘徊や認知症など、様々なことが起きていることを知るべきだと思う。

6、嫁がせる親の立場とは？

- ・婿側の親の意見を尊重すること。
- ・嫁いだ娘の部屋をそのままの状態に残さず。
- ・婚礼家具で必要以外の豪華なものを持たせず。
- ・嫁側の宗教や信仰しているお札を受けず。
- ・嫁側の供養や祀り事や墓参りをさせないこと。

- ・娘名義の通帳や保険を持たせず解約すること。
- ・親や娘名義の自動車を持たせず。
- ・嫁側の親や親族の土地や建物に住まわせず。
- ・嫁側の祖父母や親戚の行き来をさせないこと。
- ・娘や婿や孫に手伝わせたり雇用したりせず。
- ・親や姉妹同士の携帯やメールをしないこと。
- ・親と娘との共有するものは解約すること。
- ・娘とは人生儀礼だけの付き合いを心がけること。
- ・婿を無視してお祓いや鑑定をせず。
- ・娘や孫の写真を貼ったり飾ったりしないこと。
- ・娘に親や祖父母や身内の遺品や財産を渡さず。
婿側の立場を守らないと、子供たちの孫の代で同じことを繰り返えす里帰りをさせてしまう。

7、嫁いだ娘とは携帯電話を掛け合わないこと。

いまは携帯の時代になり、活用方法が進化しているが、一つ間違えれば様々なことを引き寄せてしまう。

嫁いだ娘と母親、嫁いだ姉妹同士、親と分家、従姉妹同士、おじやおばと姪や甥、女側の身内などの携帯やメールは避けたほうがいい。

昔の置き電話の場合、「もしもし。何々ですが、どちら様ですか？」「何々と申しますが」とお互いが礼儀を重んじて会話したが、携帯にはその人の番号を名前として表記されるため、「今日行くから

ね」「〇〇がいるから、後でかけなおすから」「買い物に行く？」と名前を言わずに会話している。

これは何を意味するか？

衣食住足りて礼節を知ると言われた時代があったが、上司と部下、取引先との連絡などは便利だが、嫁いだ娘との携帯は密会になり、夫婦以上に親切心や親孝行や出しゃばることは、浮気や不倫と同じになるから、礼節を重んじる携帯の活用をしてはどうか…。

8、遠交近攻の策とは。

三十六計の第二十三計に当たる戦術であり、遠くと交わり近くを攻める意とある。

すぐ隣よりも遠くの身内との交流は、隣人とのトラブルになりかねない。

一番が二番を無視して三番と仲良くすれば、二番は、四番を仲間に入れ、組織をもめさせて派閥を作り破壊されてしまう。

すぐ上の上司を無視して、そのまた上の上司と交流することは派閥を作り、トラブルの元になりかねない。

遠くの国との親密になれば隣国との争いになりかねない。

長男夫婦を無視して他の兄妹との行き来は争いの原因になりかねない。

分家や娘たちとだけで行き来をすれば、本家の立場を欺いて縁切りになりかねない。

これが今の家族や社会の派閥やもめ事や争いになっているのが現状だと思う。

9、神社仏閣の役目。

この供養や祀り事の負担でいろんな禍を招き入れているのだが、なかなか宗教の壁が厚く信じてもらえない人が多い。

今の宗教の考え方や教えがまかり通っているが、それは明治以降の教えが定着してしまっただからで、江戸時代にさかのぼると少し理解してくれるのでは…。

江戸時代の神社仏閣は寺社奉行の管理に置かれていた。

神社はお米が年貢だったので、村を一致団結し五穀豊穰を願うお祭りを盛大にすることを奨励していた。

お寺はというと所用での旅立ちや湯治場などに出かけると、関所を通るために必要な通行手形を発行する役目を与えた。

お寺には先祖がお位牌堂や納骨堂に祀られていたから、ご先祖様に恥をかかせたくないために素行よく旅をしていた。

またお寺の尊厳を維持し守ることは「このお寺

の村人はいいい住人だから」とお墨付きをもらうためもあった。

お寺には市役所のような役目もあり、亡くなられた人や嫁入りや婿入りしてきた人の住民票のような過去帳を管理していたから、弔い（葬儀）に手を出さなくても小坊主を養うことができた。

だが江戸時代から明治になると廃藩置県になり国内の移動に通行手形がいらなくなったために、供養やお年忌で収入を確保しなければ存続できなくなってきた。

10、弔いは向こう三軒両隣の絆を切らないため。

村人が主体にして弔い（葬儀）をしていたから、寺の役目は納骨堂やお位牌堂の管理が主だった。

亡くなられた故人に恥をかかせないために、村人は故人の親族を丁重にもてなした。

故人のために向こう三軒両隣の男衆は朽ち果てた墓標の下を掘り、出てきた霊骨を納骨堂に納めたり、祭壇を組んだり、煮炊きの役割をし、女衆は掃除や買い出しや接待をし、故人に恥をかかせないために、近くに住んでいる親族を丁重にもてなし、遠い親戚が七日七日をめぐめて駆けつけてくるのを、四十九日までの間もてなしていた。

故人の親族は向こう三軒両隣以上に出しゃばらないから、秩序が守れていた。

11, 四十九日の法要は親族が村人をもてなす儀式。

弔いが済み三日七日七日をすべて向こう三軒両隣が故人の親族をもてなす儀式だから、親族は故人に手を合わすためではなく、村人に「長い間、故人がお世話になりました。これからも残った家族をどうかよろしくお願いします」とお礼を申し上げ、香典やご仏前の名前は手前に向くように捧げたのは無言で「村人のためにお使ください」と思う配慮だったが、いまでは半分返すのが当たり前だと勘違いして争いを起こしている。

最後の四十九日は親族がお世話になった村人をもてなす儀式だから、親族は向こう三軒両隣以上に手を出さずに見守っていたから、争い事が起きなかった。

江戸時代は全世界的に見ても犯罪が少なかったと言われているのは、お互いの秩序を重んじていたからだと思う。

12, 命の絆を切ると病が近づく。

病は病ではなく「病は悟りの始めなり」だから、魂と命が気づいて欲しいので訴えかけているだけ。

- ・他の兄妹が長男夫婦と親との絆を切ってはいけない。
- ・向こう三軒両隣の縁を切ってはいけない。
- ・親が長男夫婦以外に頼ってはいけない。

- ・ 婿を無視して娘を引き寄せてはいけない。
- ・ 嫁の親が婿の親以上に優しくしてはいけない。

江戸時代から明治や昭和の初期には、村人はお見舞いに行き、「あなたの家を守るから安心して養生してね」と早く治るために見守っていた。

身内や親族は直接病人にお見舞いに行かず、長男夫婦に出向き労りと励ましの言葉をかけていたからもめ事や争い事が起きなかった。

この意味が分からないから、独り身や子が出来ない、うつ病や統合失調症、自閉症やアスペルガー症候群、水子や死産、非行や家出、不登校や引き籠もり、アトピー性皮膚炎やゼンソク、徘徊や認知症、交通事故や犯罪に巻き込まれる、酒乱や家庭内暴力、霊現象やラップ現象、リストラや解雇、火事や泥棒など様々なことが起きている意味が分かったおばあさんとお母ちゃんが取った行動は…。

13、行動を間違えると水の泡。

考え方と行動を間違えると、治るのも治らなくなるので、おばあさんは、まず先に娘との携帯のやり取りをいっさいしないと誓い実行し、つぎにいままで出しゃばって墓参りをしていたことを、亡くなった兄嫁に心の中で詫び、その後息子の

嫁に心から詫びてから、うつ病になっていた嫁が治り確心したので、娘婿にいままで無視してきたことを素直に詫びた。

お母ちゃんも主人に詫び、弟嫁にいままでのことを詫びてから、夫婦仲が良くなり、娘の引き籠もりだけでなく、アトピー性皮膚炎も治り始めた。

あなたの命に出会えてありがとう。